

DHカフェ『学生部だより』

2021年 12月 VOL.39

福島県立総合衛生学院

「コロナ禍における臨床実習について」

3年 伊藤 廉さん 船山 明菜さん

この度は、私たちの臨床実習について報告させていただきます。コロナウイルス感染症による私達の学生生活への影響はとても大きいものでした。いつもの日常が突然変化し活動が制限されるようになりました。慣れてしまえば仕方のない事で自分も感染しない、相手にも感染させないように配慮しながら生活を送る日々が続いています。歯科衛生士の学生として2年前とは大きく違っています。現在、臨床実習に参加するにあたり、実習の2週間前からの県外など感染拡大地域への往来の自粛、毎日の検温、行動歴の記入、実習時のPPEの着用など感染対策が必要だと感じています。

学院の教務の先生や実習先の歯科医師や歯科衛生士の皆様のご指導の元、実習で学んだことを生かし、患者さん一人一人に寄り添えるような歯科衛生士になりたいと思います。



3年 岩崎 莉央さん 高橋 奈津希さん

私たちからは昨年度から現在までの学生生活についてご報告させていただきます。昨年度は新型コロナウイルスの影響により講義が午前のみになる事や、学外実習が学内実習に変更となる事が続く日々でした。その中で先生方や関係者の皆さんのご尽力により、感染対策を強化した上で講義や実習を行うことができるようになり、大変嬉しく思います。私の通う学校では、一般的の歯科診療所などの臨床実習を行なながら、臨地実習として学校や児童福祉施設などでライフステージに応じた歯科健康教育などを実行してきました。

今の状況の中で、私たちから伝えられることは何かを考えながら実習させていただくことができ、大きな学びとなりました。

現在も新型コロナウイルス感染症の流行が継続していますが、学びの場が制限されることなく実習を続けられています。無事に行なうことが出来ていることに感謝をしながら、残りの学生生活を頑張りたいと思います。

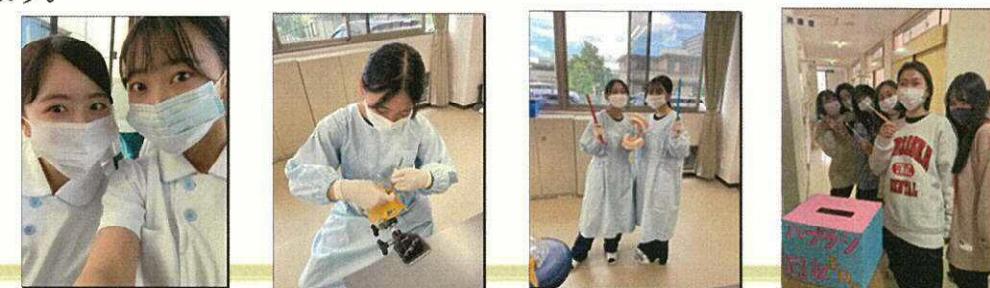


東北歯科専門学校

「コロナ禍における臨床実習について」

3年 服部 未来さん

長かった臨床実習も残り1か月、始まりから終わりまでコロナ禍での臨床実習となりました。実習中、私達は、先輩方と同様の経験ができるのか、正しい感染対策がとれているのかという不安や自分が感染してしまうのではないかという恐怖を抱いていました。KNマスク、フェイスシールドの着用や体調確認、ユニットや待合室の間隔工夫、うがい薬などの感染対策も今では当たり前となりました。このように、現在、臨床では、各医院のスタッフの努力や患者さんの協力があって安全な診療が成り立っています。コロナ禍で経験できないことも沢山ありましたが、このような状況の中、患者さんのお口の問題を解決し、健康を維持する方法を学ぶことができました。特殊で貴重な経験をしている私達は今だからこそ学べることを十分に理解し、残りの臨床実習も気を引き締めて臨みたいと思います。



「コロナ禍での過ごし方」

2年 馬場 みなみさん

コロナ禍でなかなか外出できない日々が続いているが、今は亡き祖母と愛犬との思い出が味気ない日常を色濃くしてくれました。側からみたら不仲だけど、実はツンデレで可愛くて仕方なかった愛犬は心臓の病を患っていて、別れはあまりにも突然で立ち直るまでに数ヶ月かかりました。そのような中、祖母の末期がんがわかり、残された時間は迫ってくるばかりで、でも時間に限りがあるからこそたくさんの思い出を作ることができ、楽しく充実した毎日がすごせました。余命宣告がされてから、今までの感謝をどうやって恩返しできるかたくさん考えました。コロナがなかったら祖母の大好きな藤の花と一緒に見に行きたかったです。しかし、このような状況だからこそ家族がいつも祖母の周りに集まっていたので、寂しい思いをさせることがなかったのかなと思うととても良い時間になりました。運命の巡り合わせなのか、祖母が亡くなる前にヤンチャな天使（チワワ）が馬場家に舞い降りました。とても甘え上手で今や家族のアイドルです。



福島医療専門学校

「コロナ禍における臨床実習について」

3年 山崎 裕美子さん

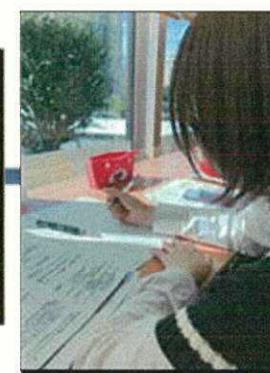
1月から開始した臨床実習も間もなく終了が近づいている。臨床での患者さんとのやり取りは学校で学んできた術式や手順などが結びつき、生きた知識につながっていて、とても有意義な学びの場となっている。コロナ禍の実習においては口腔外バキュームを用いた診療補助や、ガウンテクニック、ゴーグルにフェイスガード越しでの操作など、慣れない操作に戸惑うことも多くあった。エアロゾルという言葉も、コロナにより多くの人が知る言葉になったように思う。大きく開口し、水や唾液が飛散する歯科では特に感染の不安を感じながら受診される方も多いと思う。しかし、だからこそ基本に忠実に、患者さんが安心して受診出来るようにすることが大切だと感じた。歯周病によるコロナの重症化リスクは8.06倍とのデータも報告されており、歯科は口腔からコロナ禍と戦っていると知った。私自身もその一員の医療人となれるよう、このような状況でも受け入れて下さった実習先の皆様や患者さんに感謝しながら、1ケース1ケースを大切に学びを重ねていきたいと思う。



「コロナ禍での過ごし方」

2年 荒井 瑞穂さん

新型コロナウィルスの出現は私たちの生活を大きく変えました。ウィルスの流行し始めの頃は、マスクをしていれば大丈夫、数カ月ですぐに収まるだろうと思い、行動を自粛するという気持ちがあまりなかったというのが正直なところです。しかし、感染者は急激に増え、自由な外出ややりたいことができなくなってしまったことで危機感が高まり、自粛しなければという気持ちが大きくなりました。以前は友達と旅行の計画を立て実行する楽しみを目標に勉強などを頑張っていましたが、新型コロナウィルスにより楽しみや学生の時にしかできない経験がどんどん失われていきました。しかし、やりたいことが制限される中でも学習したことを生かし、悩むだけでなく自分なりに感染対策などを考え、楽しく過ごせる努力をしています。医療従事者になるために学習している今、感染対策の重要性や自分に何ができるのかを考え、責任のある行動をしていきたいと思います。



先輩DHさんから

「歯科衛生士、始まりました。」

中村 純香さん (東北歯科専門学校卒業)

歯科衛生士として働き始めて数カ月、自分の未熟さを感じながらも充実した日々を送っています。小児歯科で働く私は、最初は患児相手にどのような声掛けをすべきか迷いましたが、先輩歯科衛生士のご指導のおかげで今では積極的に診療に携わることができます。

新型コロナウイルスの感染予防対策ではマスクの二重着用やゴーグルの装着、手指消毒や周囲のこまめな清拭などを徹底しています。また、患者さんには診療室に入る前に検温のご協力をお願いしており、安心して治療ができるように努めています。

学生の頃と比べて患者さんとの距離が近くなっただ分、やりがいを感じる機会が増えました。泣きながら治療を頑張ってくれる患児もいれば、治療が終わってから「ありがとう」と言ってくれる患児もいて、その度に心が温かくなります。まだ新人歯科衛生士ですが、早く一人前の歯科衛生士になれるよう努力を惜しまず、仕事に励みたいと思います。



「コロナ禍の感染対策」

石高 ちひろさん (県立総合衛生学院卒業)

私は今年の4月から働き始めました。やはり学生時には感じなかった緊張や緊張感を感じます。

更に、新型コロナウイルスの感染が拡大している今、今まで以上の感染予防も求められ、私の職場ではフェイスシールドやガウンの着用をしています。夏の暑い時期はクーラーをつけていても暑く大変でした。

しかし、歯科はエアロゾルなど飛沫しやすく、手指消毒や滅菌、口腔外バキュームの使用など、基本的な感染予防が大切だと改めて感じました。

そんな大変な時期ですが、院長先生やスタッフの方々に恵まれ、毎日楽しく仕事をしています。実際に患者さんの口腔内がよくなっていくのを実感したり、できなかつたことができるようになったり。とてもやりがいを感じています。学生の時よりも歯科衛生士という仕事が好きになりました。

技術面も知識もまだまだですが、より良い歯科衛生士になれるよう今後も頑張っていきたいと思います。

